

令和元年度インターネットの利用に関するアンケート結果（概要版）

令和 2 年 3 月
社 会 教 育 課

1 調査目的

スマートフォンやゲーム機等、電子メディア機器の普及やSNS等のコミュニティサイトの拡大により、子どもたちの生活習慣の乱れや犯罪につながる行為が憂慮されていることから、インターネット利用に係る子どもたちの実態調査を行い、その結果を児童生徒、保護者及び学校等への啓発につなげていく。

2 調査方法

(1) 実施時期 令和元年9月2日～9月20日

(2) 対象者 小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生とその保護者及び未就学児（年長）の保護者（それぞれ10%程度を抽出して実施）

	学校(園)数(校・園)	児童・生徒(人)	保護者(人)	計(人)
年長児	16		395	395
小学校6年	16	554	456	1,010
中学校2年	10	542	468	1,010
高等学校2年	16	496	381	877
	58	1,592	1,700	3,292

(3) 対象機器(6機器)

携帯電話、スマートフォン、パソコン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ゲーム機

【注】本書において以下の表記は、それぞれに記載するものを差す

○「H27調査」

「平成27年度インターネットの利用に関するアンケート」鳥取県教育委員会

対象者：小6、中2、高2とその保護者及び就学前の保護者（3,376人）

○「全国調査」

「平成30年度青少年のインターネット利用環境実態調査」内閣府政策統括官

対象者：満10歳から満17歳の青少年とその保護者、0歳から9歳の子どもの保護者（8,771人）

3 調査結果の概要

(1) 児童・生徒調査

①自分専用のメディア機器所持状況(対象：全回答者)

スマートフォン所持率は、小学校・高校で全国平均と同程度、中学校では全国平均以下と考えられる。

小中高ともに約7割が自分専用のゲーム機を所持している。

	スマートフォン	携帯音楽プレーヤー	ゲーム機
小6	24.0% (全国 小4～6：20.9%)	21.5%	71.8%
中2	38.2% (全国 中1～3：57.5%)	38.9%	68.1%
高2	96.4% (全国 高1～3：99.9%)	39.3%	67.1%

※ () 書きは、全国数値(鳥取県教委試算)。全国の数値は、「全国調査」において、インターネットを使用している児童・生徒が自分専用のスマートフォン(格安スマホ・機能限定スマホ・子ども向けスマホ・契約期間が切れたスマホ含む)を所持している割合から試算。なお、全国調査の数値は、本調査とは対象年齢が異なる。

※自分専用の機器所持率は今年度初めて調査を行った。

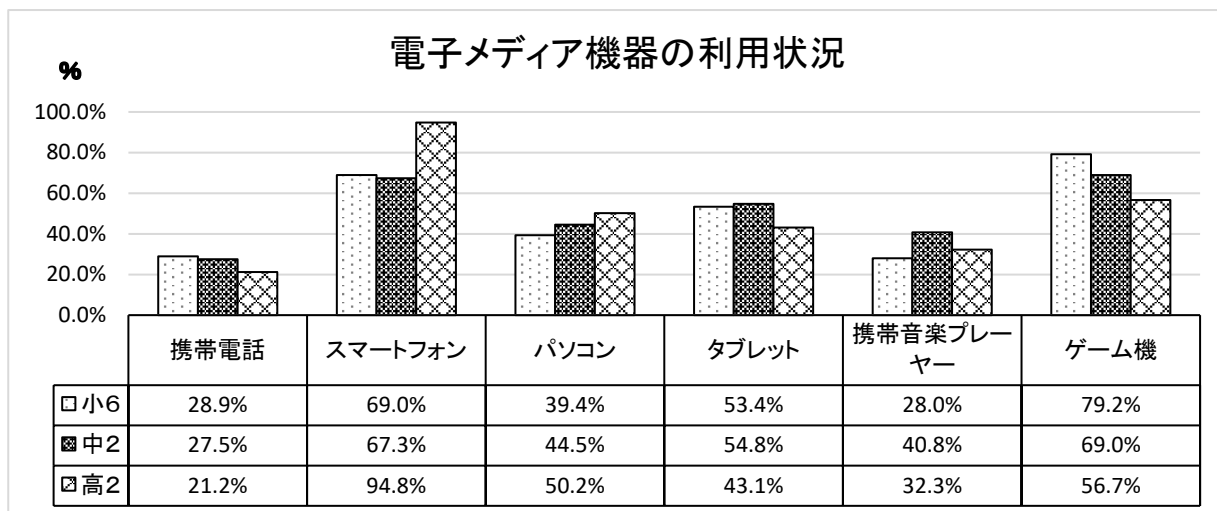
②電子メディア機器の利用状況（①の自分専用の機器以外での利用を含む。対象：全回答者）

スマートフォンについて所持率との比較を行うと、

小6:所持率24.0% → 利用率69.0%(45.0ポイント多)

中2:所持率38.2% → 利用率67.3%(29.1ポイント多)となる。

「H27調査」と比較すると、スマートフォンの利用は高2では差がみられないが、小6で9.1ポイント増、中2で24.3ポイント増となり、タブレットの利用は小6で10.8ポイント増、中2で15.5ポイント増、高2で19.2ポイント増となった。



③インターネットの利用率（①の自分専用の機器以外での利用を含む。対象：全回答者）

インターネットの利用率は、「H27調査」に比べ、小6で7.2ポイント(H27:80.9%→R1:88.1%)、中2で3.1ポイント(H27:86.2%→R1:89.3%)増加している。

中2については全国平均(中1～3)より5.8ポイント、高2については全国平均(高1～3)より3.6ポイント低い利用率、小6では全国平均(小4～6)より高い利用率となっている。ただし、いずれも調査対象学年が異なるため、単純比較できない。

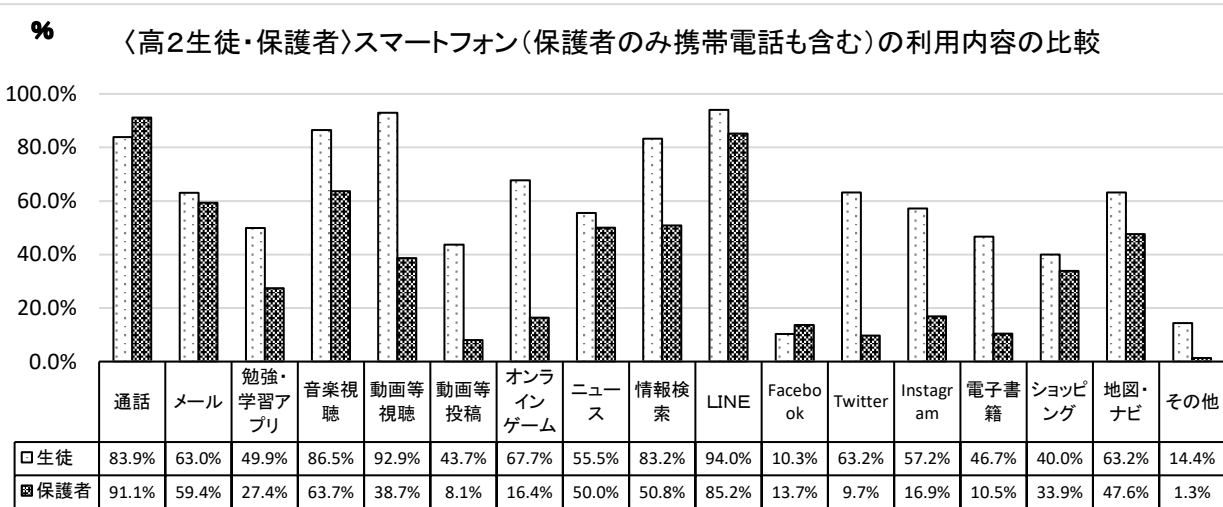
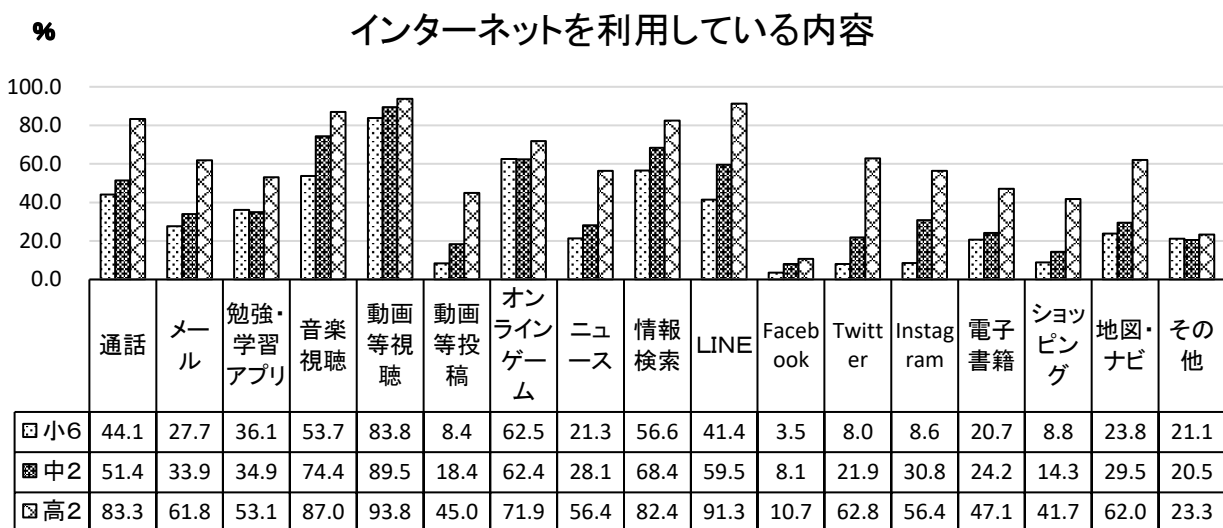
インターネットを利用している割合

	R1 鳥取県	H30 全国(※)	H27 鳥取県
小6	88.1%	85.6%	80.9%
中2	89.3%	95.1%	86.2%
高2	95.4%	99.0%	96.2%
平均	90.8%	93.2%	87.6%

※全国調査の数値は、小学校4年生から6年生の平均値、中学1年生から3年生の平均値、高校1年生から3年生の平均値となっており、本調査と対象が異なる。

④インターネットの利用内容（対象：インターネットを利用する児童・生徒）

どの学校種においても動画視聴の利用割合が一番高い。
 オンラインゲーム、音楽視聴、情報検索、LINE等の利用割合も多い。
 高校生になると、TwitterやInstagramの利用が急増している。
 いずれの学校種においても、動画視聴、オンラインゲームは、児童・生徒の方が保護者よりも高い割合で利用しており、中2、高2では、このほかに動画等投稿、Twitter、Instagramにおいても、生徒と保護者の利用状況に大きな差が見られた。



※小6・中2の児童・生徒と保護者の利用内容についても比較を実施している。

⑤インターネットの利用時間（対象：インターネットを利用する児童・生徒）

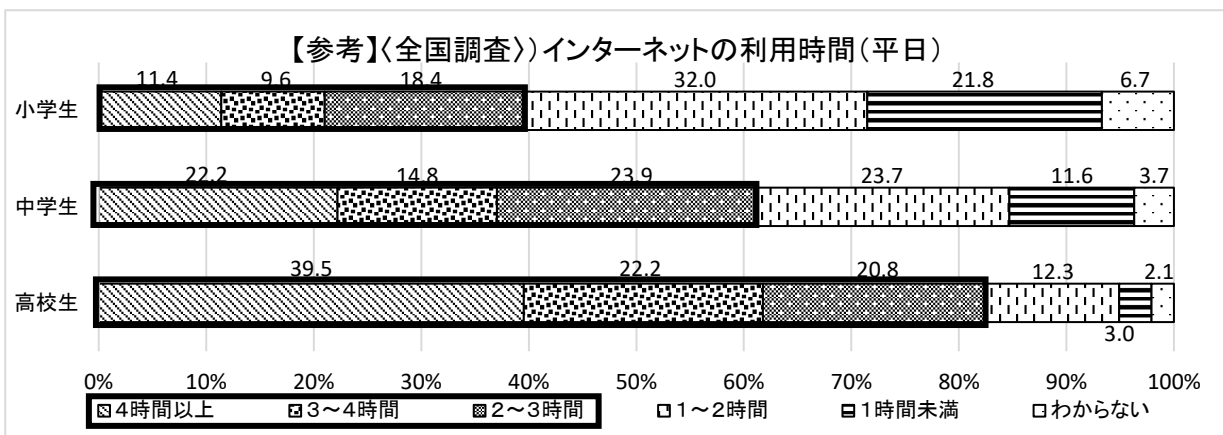
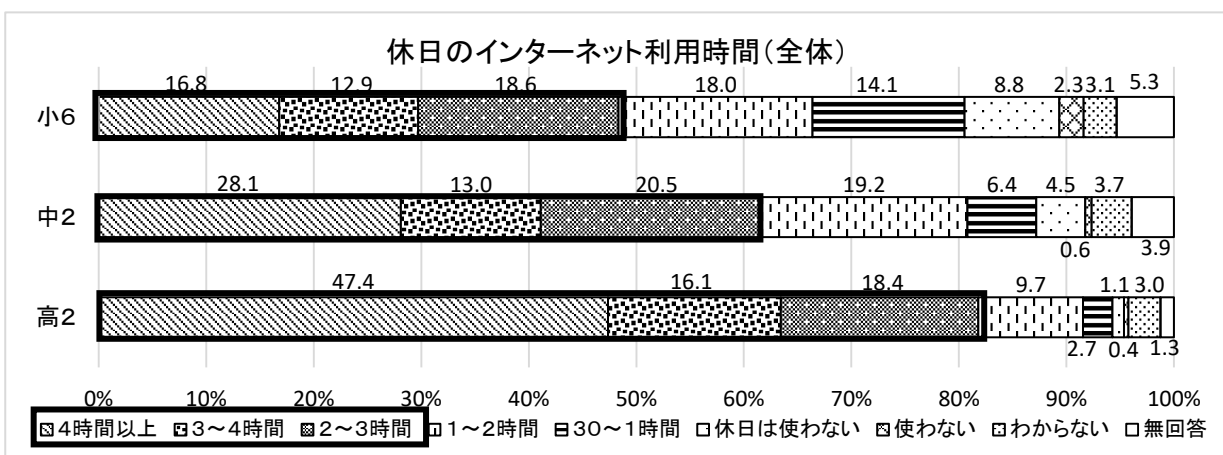
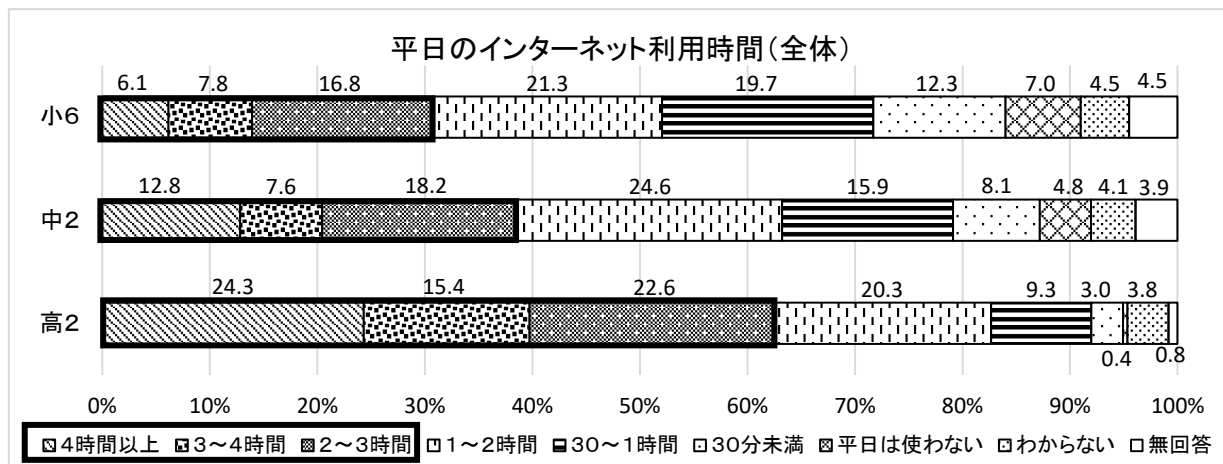
インターネットを利用している児童・生徒のうち、平日2時間以上利用している割合は、小6で30.7%、中2で38.6% 高2で62.3%であり、学校種が上がるほど長時間利用となる傾向がみられる。

インターネットを利用していない児童・生徒も含めると、小6全体(554人)の27.1%、中2全体(542人)の34.4%、高2全体(496人)の59.5%が平日2時間以上、23.2%は1日4時間以上利用している。

全国と比較すると、全学校種でインターネットを利用している児童・生徒の平日2時間以上利用の割合は少ない。(全国 小4～6:39.4%、中1～3:61.0%、高1～3:82.6%)

休日になると、いずれの学校種とも平日より利用時間が大幅に増えており、高2ではインターネット使用者の8割以上が2時間以上、半数近くが4時間以上の利用となっている。

なお、インターネット利用者のうち、小6はゲーム機、中2・高2はスマートフォンでの長時間利用が多い。



※全国調査の数値は、小学校4年生から6年生の平均値、中学1年生から3年生の平均値、高校1年生から3年生の平均値となっており、県の調査と対象が異なる。

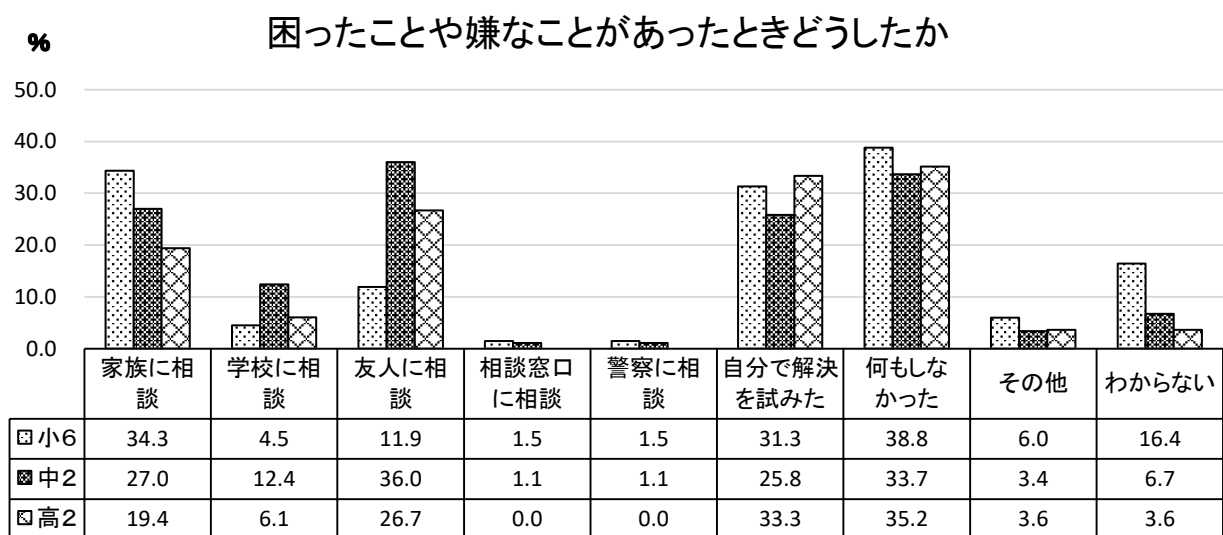
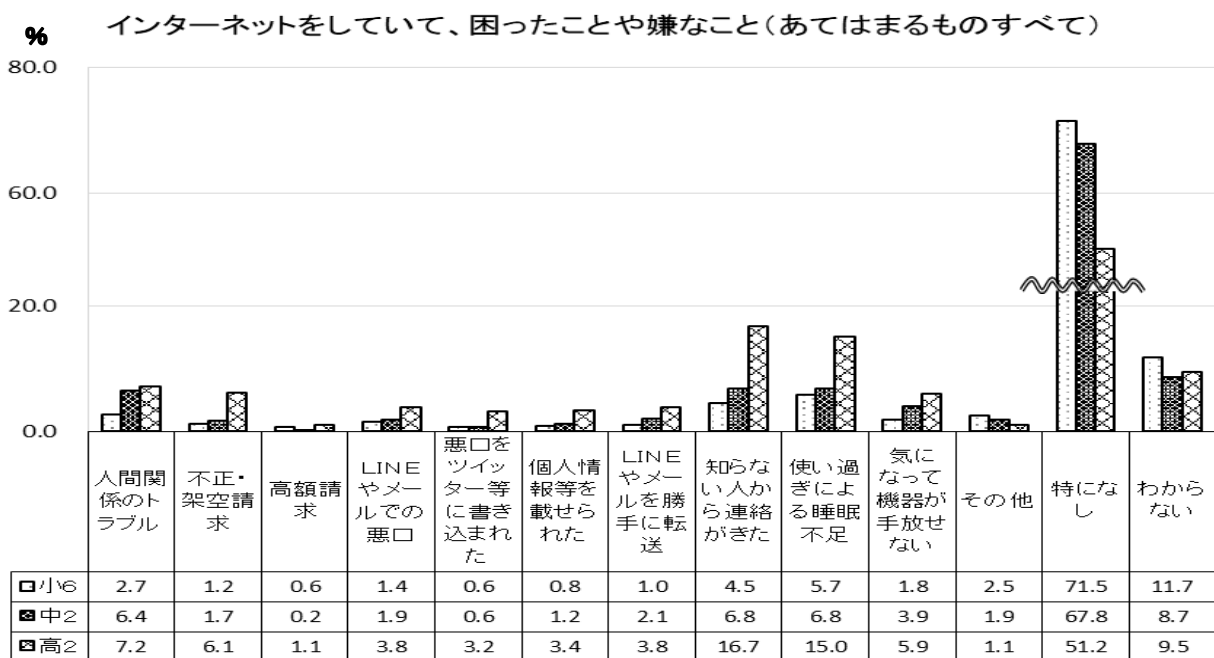
⑥インターネットでのトラブルの経験（対象：インターネットを利用する児童・生徒）

いずれの学校種においても「特になし」が大半であり、その割合はH27調査より増加しているが、小6については、「人間関係のトラブルがあった」が1.2ポイント増加しているほか、H27調査では該当がなかった「不正・架空請求等をされた」「高額な請求をされた」が出てきており、「LINEやメールが気になりスマートフォン等が手放せない」も微増している。H27調査とほぼ同率であるが、「知らない人から連絡が来た」を挙げた児童も4.5%ある。

高2については、「使い過ぎて睡眠不足になった」が3.1ポイント増加しているほか、LINE・メール・Twitterに悪口を書かれるケースが増加し、「人間関係のトラブル」も微増している。

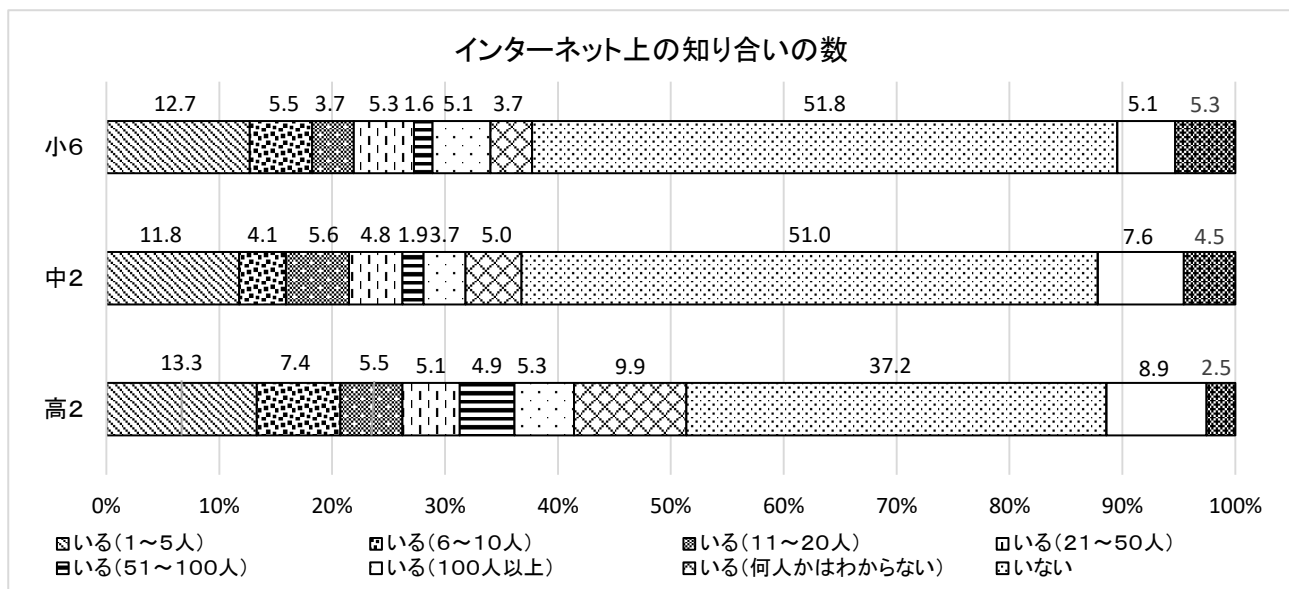
困ったときの相談相手について、学校種が上がるにしたがって「家族に相談」が減少し、「友人に相談」が増加している。また、H27調査と比べ、高2において「友人に相談した」が微減した以外は、家族・学校・友人に相談した割合が増加しており、特に学校に相談した割合は全ての学校種において増加している。

なお、困ったときや嫌なことがあったときに「何もしなかった」と回答した児童・生徒も相当数存在している。



⑦インターネット上の知り合い（対象：インターネットを利用する児童・生徒）

インターネット利用者（小6：88.1%、中2：89.3%、高2：95.4%）のうち、インターネット上の知り合いがあると回答した割合は、小6で37.7%（H27：16.5%）、中2で36.9%（H27：36.4%）、高2で51.4%（H27：37.4%）であり、小6で21.1ポイント、高2で14.0ポイント増えるなど、H27調査より大幅に増えている。また、「100人以上」と回答した児童・生徒がいずれの学校種も4～5%程度存在している。なお、知り合ったきっかけとしてはオンラインゲームが多いが、中・高ではSNSも多い。



⑧家庭でのルール（対象：インターネットを利用する児童・生徒）

児童・生徒、保護者ともに家庭で何らかのルールがあるとする割合は全国平均を上回っており、小6・中2ではH27調査より増加しているが、高2については下がっている。
 H27調査同様に「家庭でのルール」に関して子どもと保護者と児童・生徒自身の意識の差は学校種が上がるにつれて大きくなっているが、差の改善がみられる。
 また、「ネット上の知り合いと会わない」というルールがある割合は小6では保護者・児童ともに3割台（保護者36.2%、児童30.5%）であるが、中2（保護者41.1%、生徒23.1%）、高2（保護者36.2%、生徒10.1%）と、認識の差が開いている。

「家庭で何らかのルールがある」と回答した児童・生徒の割合（ ）内は全国調査

- 小6 83.2%（小4～6：77.0%） ← H27 75.0%
- 中2 70.9%（中1～3：62.3%） ← H27 61.7%
- 高2 36.2%（高1～3：37.2%） ← H27 37.8%

「家庭で何らかのルールがある」と回答した保護者の割合（ ）内は全国調査

- 小6 94.6%（小4～6：85.5%） ← H27 94.2%
- 中2 91.2%（中1～3：79.5%） ← H27 90.3%
- 高2 77.4%（高1～3：58.8%） ← H27 82.0%

「家庭で何らかのルールがある」と回答した児童・生徒と保護者の割合の比較

	児童・生徒	保護者	差	H27調査における差
小6	83.2%	94.6%	11.4	19.2
中2	70.9%	91.2%	20.3	28.6
高2	36.2%	77.4%	41.2	44.2

「ネット上の知人と会わない」というルールがあると回答した児童・生徒と保護者の割合の比較

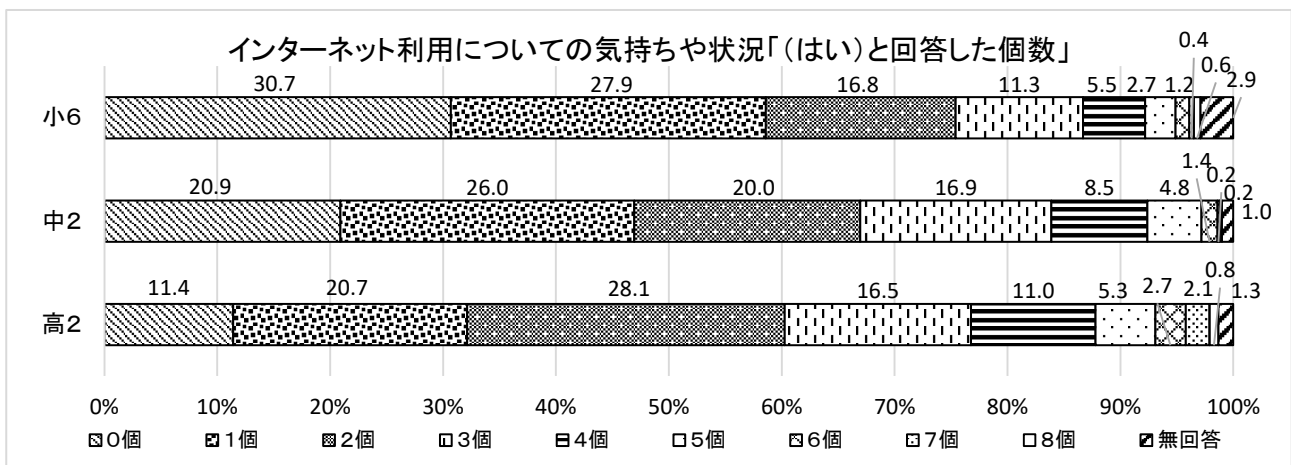
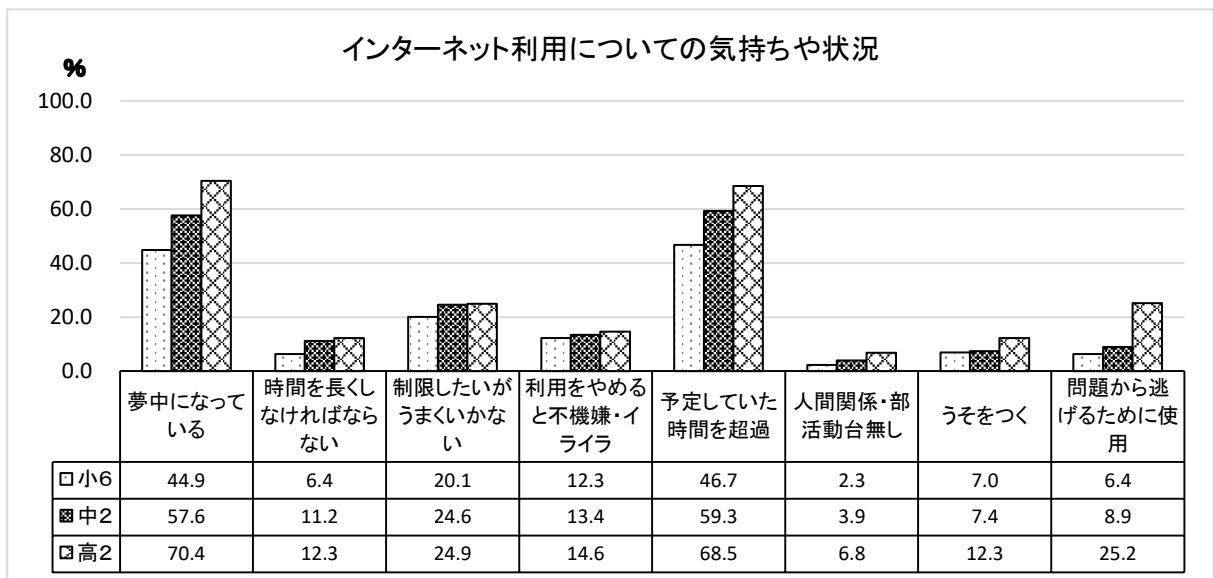
	児童・生徒	保護者	差
小6	30.5%	36.2%	5.7
中2	23.1%	41.1%	18.0
高2	10.1%	36.2%	26.1

⑨依存傾向（対象：インターネットを利用する児童・生徒）

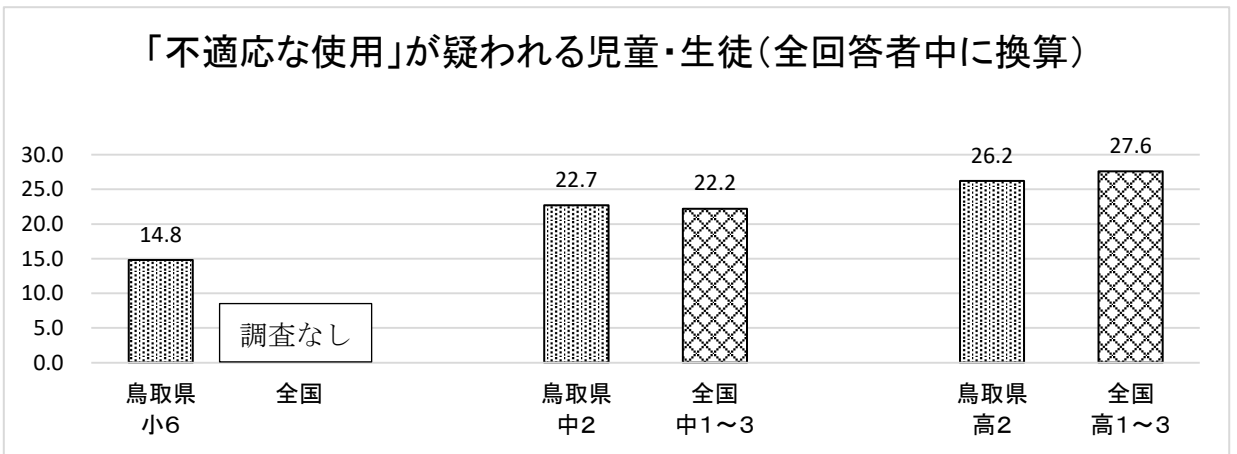
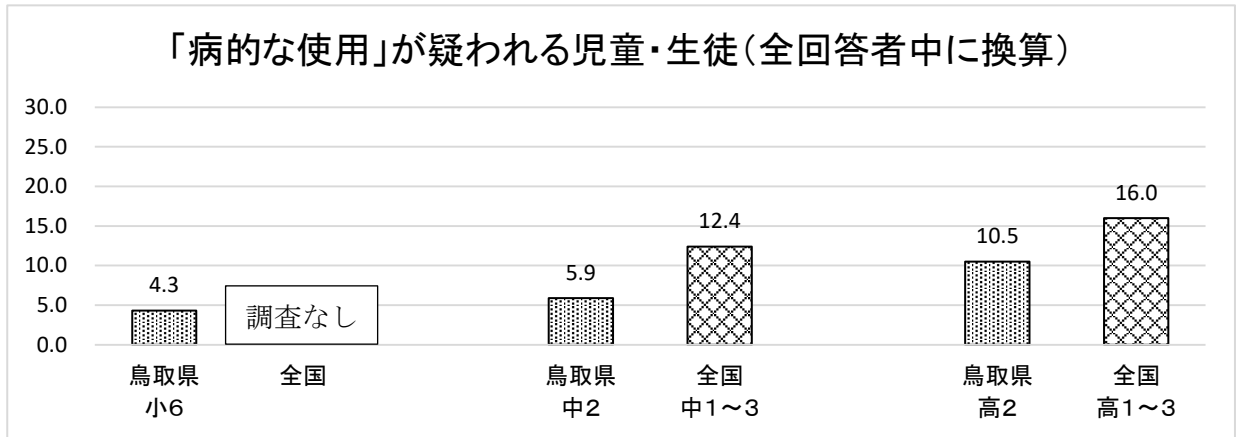
いずれの学校種においても「インターネットに夢中になっている」「使い始めに予定していた時間よりも長い時間インターネットを使うことがある」と感じている割合が高い。

また、高2においては、インターネット利用者の約4人に1人が「問題から逃げるため、いやな気持ちから逃げるためにインターネットを使う」と回答している。

インターネットを利用していない者を含めた全回答者のうち、「病的な使用が疑われる」割合は全国平均（中：12.4%、高：16.0%）よりもかなり低い結果となったが、一定割合（小6：4.3%、中2：5.9%、高2：10.5%）存在。



	小6	中2	高2
適応使用（0～2個）	75.4%	66.9%	60.2%
「不適応な使用」が疑われる（3～4個）	16.8%	25.4%	27.5%
「病的な使用」が疑われる（5～8個）	4.9%	6.6%	10.9%

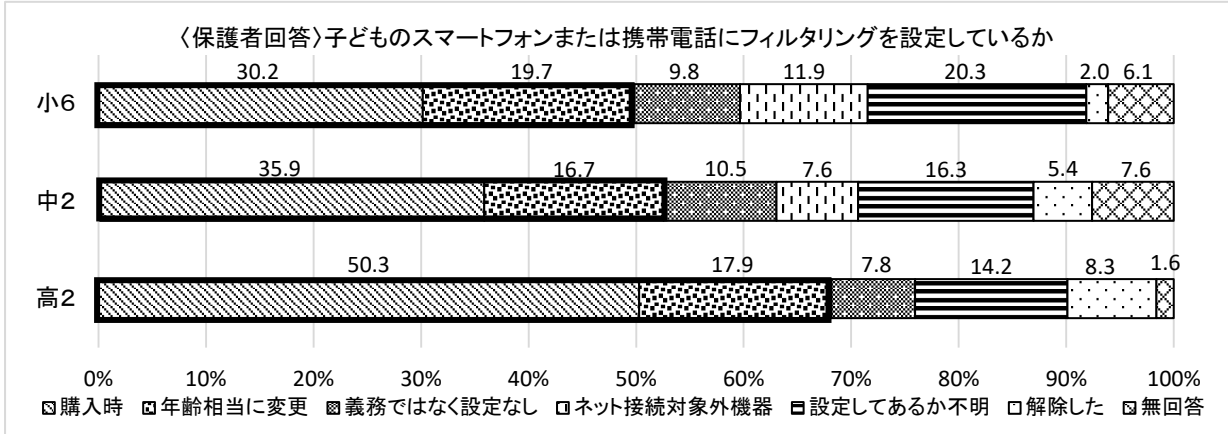


※「尾崎米厚(2018), 飲酒や喫煙等の実態調査と生活習慣病予防のための減酒の効果的な介入方法の開発に関する研究, 55」では、5つ以上「はい」と答えた場合を「病的使用者」とし、3～4つを「不適応使用者」、2つ以下を「適応使用者」としている。上記全国との比較では、同研究結果を全国数値としている。

(2) 保護者調査 (小中高校生の保護者)

①フィルタリングの設定率 (対象：子どもがスマートフォンまたは携帯電話を利用していると回答した保護者)

スマートフォンのフィルタリング設定状況を見ると、学校種が上がると設定率が上がっているが、「設定なし」「解除した」が合わせて十数パーセント (小6：11.8%、中2：15.9%、高2：16.1%) ある。



※平成30年2月に、18歳未満がスマートフォンや携帯電話の契約・機種変更をする際の店頭でのフィルタリングの設定が義務化されたため、それ以降に購入した機器には、購入時にはフィルタリングが設定された状態である。

②危険性について学習した経験 (対象：全回答者)

学習した経験は全国平均より高く、H27調査と比べても増加しているが、年長児の保護者の学習経験は、他に比べ低い傾向にある。

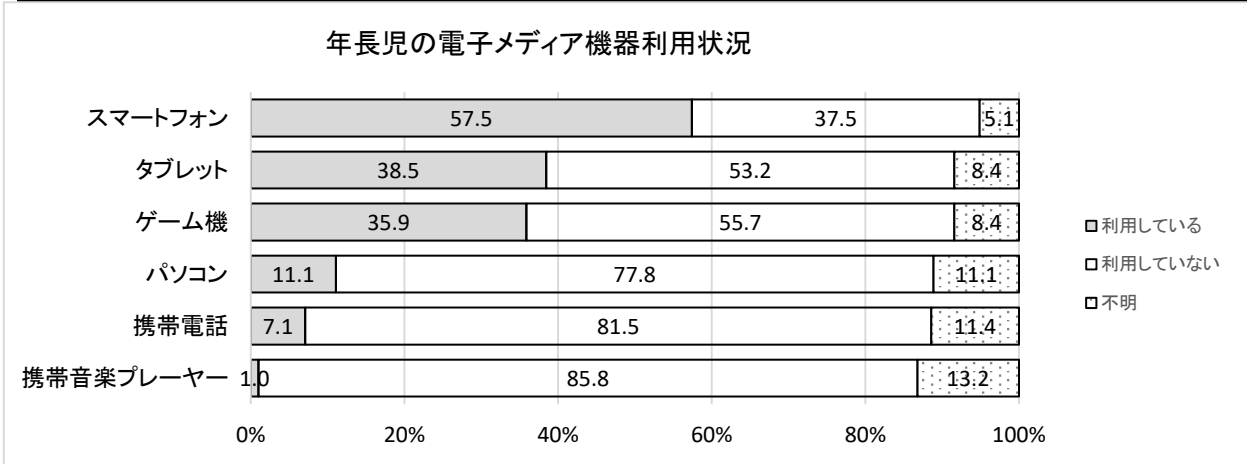
「何らかの学習をしたことがある」と回答した保護者の割合

	今回調査 (全国調査)	H27調査
年長児	83.3%	76.7%
小6	91.2% (小4~6: 69.6%)	90.3%
中2	91.2% (中1~3: 79.7%)	90.1%
高2	93.2% (高1~3: 79.4%)	91.2%

(3) 年長児保護者調査

①年長児の電子メディア機器利用 (対象：全回答者)

H27調査と比べ、機器の利用がスマートフォンで17.3ポイント、タブレットで15.3ポイント増加しており、未就学児の6割弱がスマートフォンを、4割弱がタブレットやゲーム機を利用している。



②年長児のインターネット利用率

(対象：全回答者)

年長児の半数以上が、いずれかの電子メディア機器でインターネットを利用している。

いずれかの機器で「インターネットを利用している」と答えた割合 () 内は全国調査

○年長児 55.2% (全国(5歳)：67.8%)

③年長児のスマートフォン利用率

(対象：全回答者)

年長児のスマートフォン利用率はH27調査から大幅に増加(H27：40.2%)。全年長児の38.2%がスマートフォンでインターネットを利用している。

子ども(年長児)が「スマートフォンを利用している」と回答した保護者 57.5%

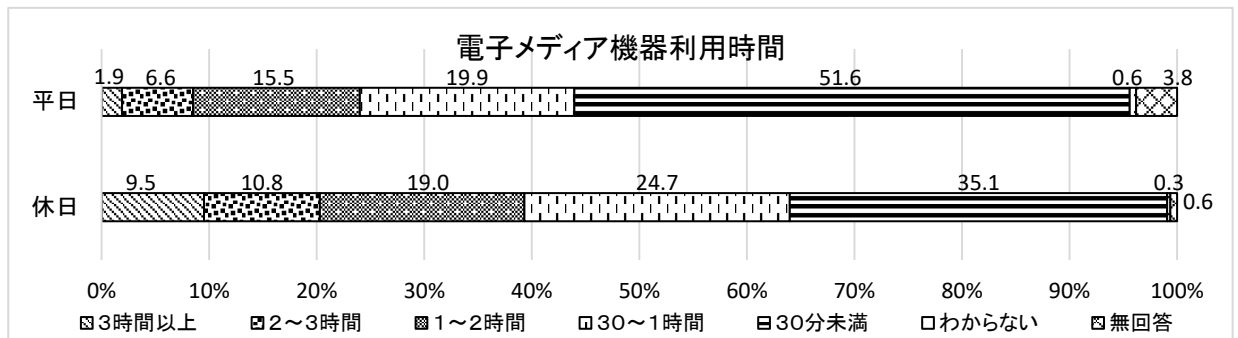
そのうち「インターネットを利用している」と回答した保護者 66.5%

→スマートフォンでインターネットを利用している年長児 38.2%

④電子メディア機器の利用時間(対象：子どもがいずれかの機器を利用していると回答した保護者)

平日は30分未満が半数以上だが、電子メディア機器を利用している年長児の24.0%(全年長児の19.2%)が1時間以上利用しており、H27調査と比べて6.9ポイント(全年長児では7.3ポイント)増加している。2時間以上は8.5%(全年長児の6.8%)。

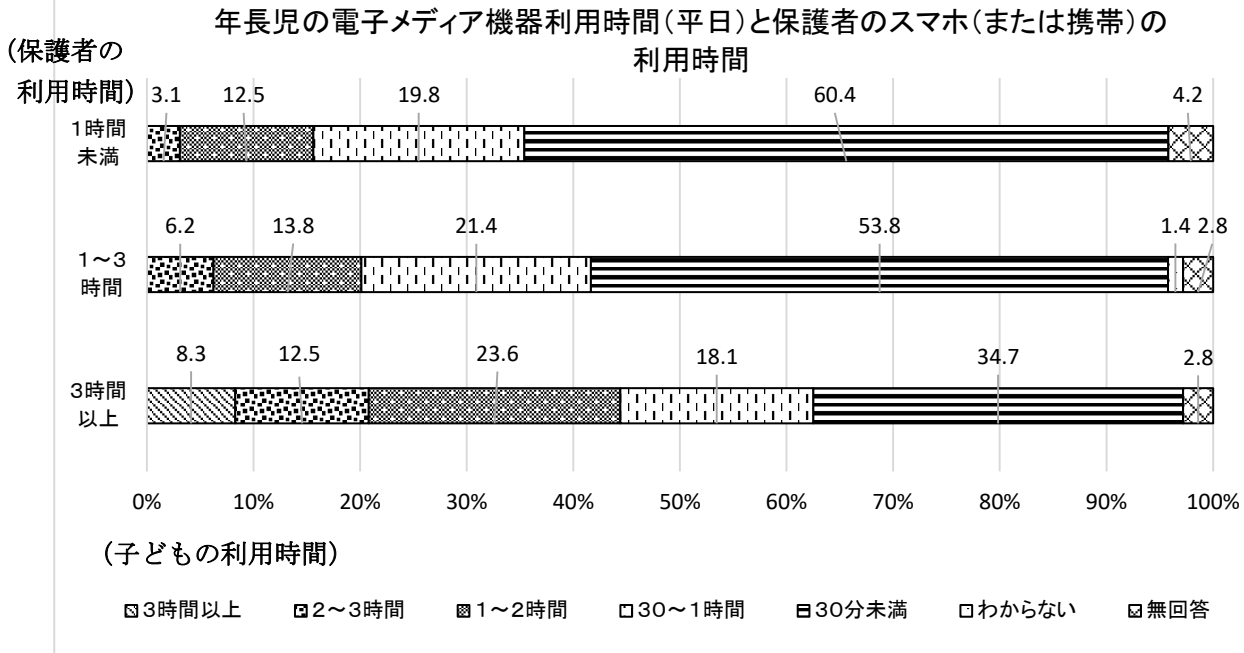
休日は電子メディア機器を利用している年長児の39.2%(全年長児の31.4%)が1時間以上利用しており、この中でも9.5%(全年長児の7.6%)が3時間以上利用している。休日に利用時間が伸びる傾向がうかがえる。



⑤年長児の電子メディア機器利用時間(平日)と保護者のスマホ(または携帯電話)利用時間

保護者のスマートフォンまたは携帯電話利用時間が長いほどその子ども(年長児)の電子メディア機器利用時間が1~2時間、2~3時間、3時間以上のいずれの割合も増加し、保護者の利用時間が長くなるほどその子どもの利用が長くなる傾向がみられた。

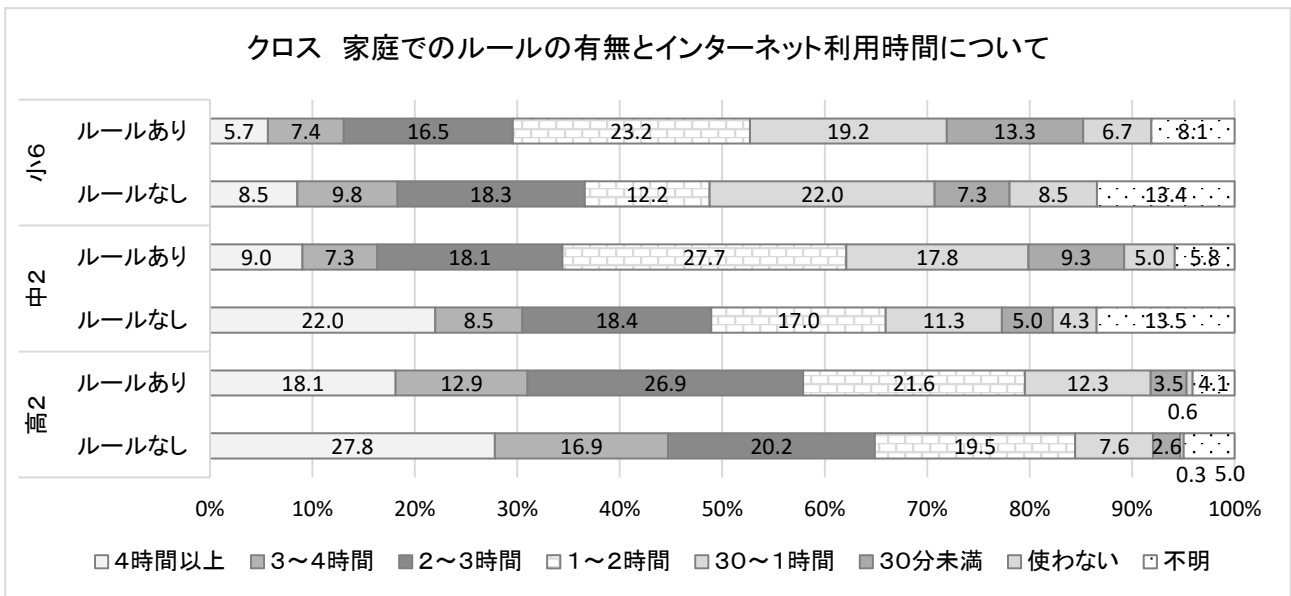
特に、保護者が3時間以上利用する場合には、その子どもが1時間以上利用する割合は44.4%(保護者1時間未満の場合:15.6%、保護者1~3時間の場合:20%)、うち子どもの2時間以上の利用の割合20.8%(保護者1時間未満の場合:3.1%、保護者1~3時間の場合:6.2%)と高率であり、保護者が3時間未満の利用の場合には見られなかった子どもの3時間以上の利用もそのうち8.3%存在していた。



(4) 生活習慣等との関係

①家庭でのルールの有無とインターネット利用時間について

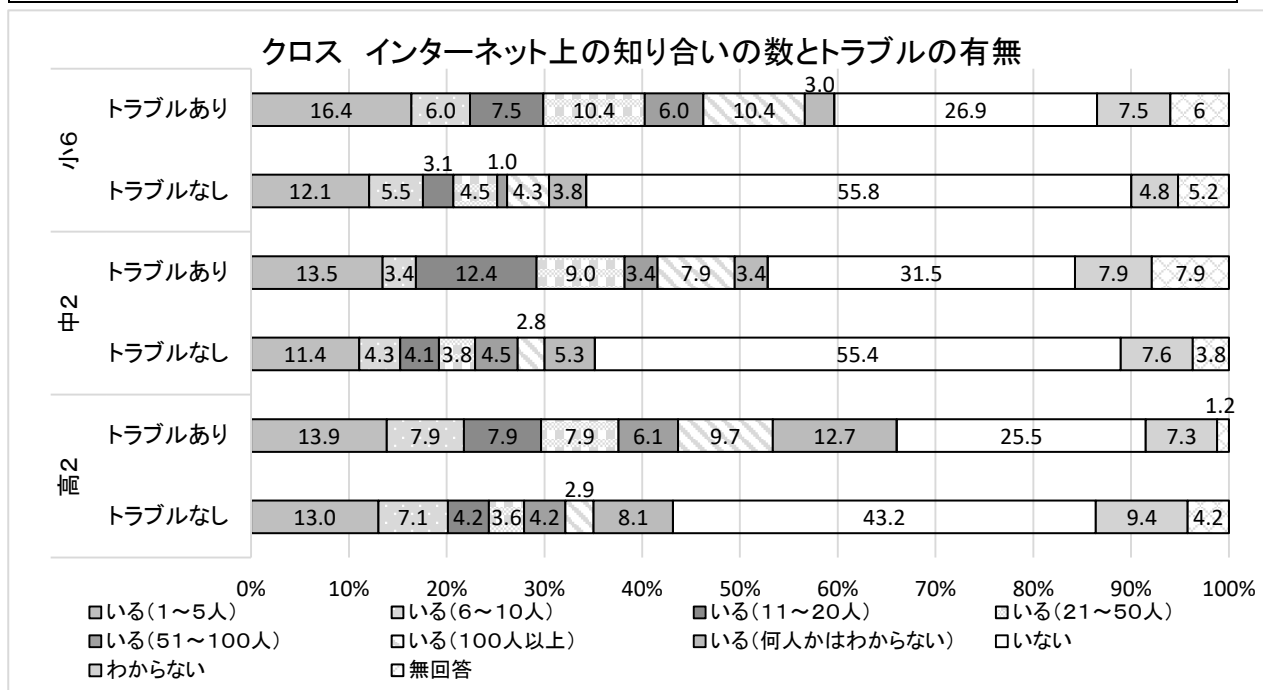
全ての学校種において、家庭でのルールがない児童・生徒ほど3時間以上インターネットを利用している割合が多く、小・中学生では、2時間以上利用している割合も多くなる。



②インターネット上の知り合いの数とトラブル経験の有無

全ての学校種において、トラブル経験のない児童・生徒のインターネット上の知り合いが少ない割合が高く、トラブル経験のない児童・生徒のほうがインターネット上の知り合いの数が少ない傾向にある。

特に知り合いの数が10人を超えたところで、「トラブル経験あり」の割合と「トラブル経験なし」の割合が開く傾向がみられる。



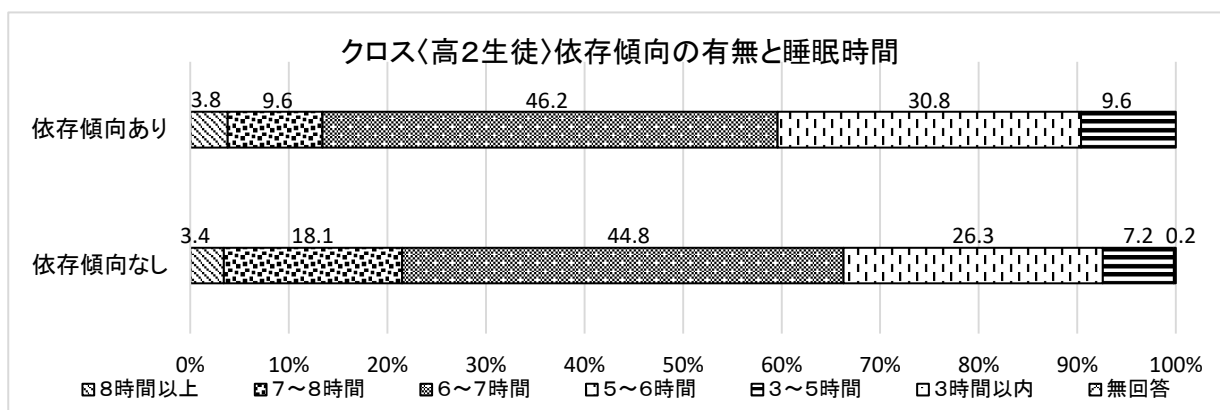
③依存傾向の有無と生活習慣等の関係（高校2年生）

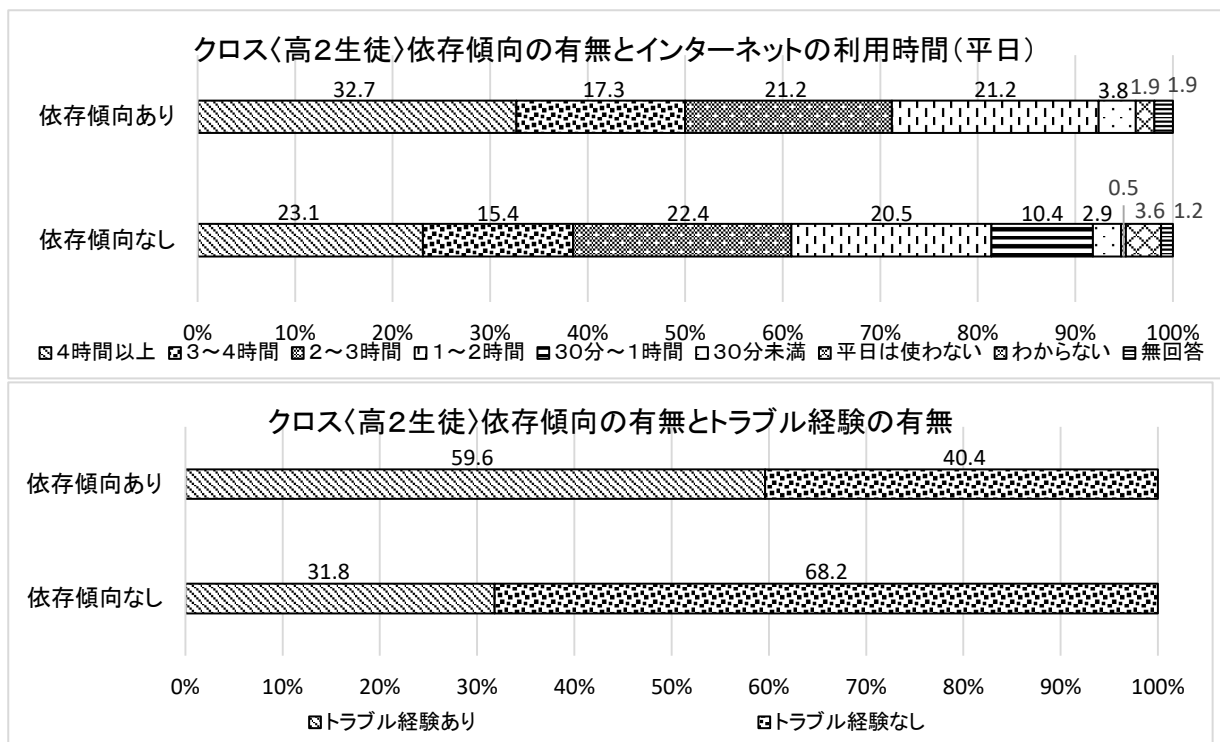
依存傾向のある生徒のほうが、睡眠時間が短い傾向にある。

依存傾向がある生徒のほうが、インターネット利用時間が長く、依存傾向のある生徒がインターネットを平日3時間以上利用している割合は半数に及び、3人に1人は4時間以上利用している。

依存傾向のある生徒のほうが、トラブルを経験している割合が多い。

※小6と中2は「依存傾向あり」の標本数が50未満のため分析の対象から除いている。





【参考調査】インターネット利用と読書の関係について

平成31年3月に策定した「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン(第4次計画)」において、インターネット利用の普及・低年齢化にかんがみ、計画期間中にインターネット利用と読書活動に関する実態把握を行い、今後の方向性を検討するとしており、実態把握の一環として、本調査において読書時間等についてもあわせて調査を行った。この結果については、同ビジョンの計画期間中に別途実施予定の「子どもの読書活動に関するアンケート」調査結果とあわせ、子どもの読書活動推進に関する検討の中で活用していく。

「読書をまったくしない」割合「2時間以上読書をする」割合のいずれも、ネット利用時間が長くなるほど増える傾向にあるが、「ネットを利用しない」場合にはいずれも1時間未満利用する場合よりも高く、ネットを1時間未満利用する層が最も読書をしている(小6・中2のみの分析。高2は「ネットを利用しない層」のサンプルが少ないため分析を行っていない)。長時間のネット利用は読書時間を減少させるが長時間にわたらないネット利用は読書傾向に対してプラスに働く可能性があること、ネットをすることで読書をしなくなる層のほかネットも読書も長時間する層も存在することがわかる。

「読書をする」層は読書をしない層に比べ、インターネットを勉強に利用している割合が高く、ニュース、情報検索、電子書籍といった情報を得る手段として利用している割合も高い一方、「読書をしない」層については、動画、ゲーム等にインターネットを利用する割合が高く、中2においてはSNSに利用する割合も高かった。

4 今後の対応

市町村教育委員会及び各学校、PTA、県警本部、知事部局等の関係機関と連携しながら、子どもたちが電子メディア機器と正しく付き合うための施策を検討・充実する。

・児童・生徒がインターネット利用の危険性やルールについて学校・家庭等で学び、考え、話し合う機会の充実

例) ○毎年度作成する情報モラル教育教材(電子メディアとの付き合い方学習ノート)において、依存・人間関係のトラブル・犯罪被害等の防止を意識した事例を取り上げ、学校や家庭で学び、

- 考え、話し合う機会を充実
- 児童・生徒のワークショップ等で全県共通の標語を作成し、今後の啓発に活用
 - 電子メディアとの付き合い方に係る自由研究の支援企画を実施
 - 学校への情報モラル教育専門家の派遣事業の対象校数増と疑似体験型授業のメニュー化
 - 幼稚園教諭・保育士等に対する研修・啓発
- ・乳幼児保護者も含め保護者が子どものインターネット利用の実態、家庭での話し合いやルールづくりの必要性について学ぶ機会の充実
- 例) ○P T Aと連携したフォーラム等
- 乳幼児保護者対象の啓発チラシ・イベント等
 - 保護者研修会等への講師派遣事業について乳幼児保護者等による活用を促進